

Sato Project

Sato Project

農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境—
「里」プロジェクト

お問い合わせ

総合地球環境学研究所佐藤研究室(加藤) e-mail:sato@chikyu.ac.jp

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457-4 Tel:075-707-2384 Fax:075-707-2508



梨木神社の萩まつりは9月中旬に行われます。
境内に湧き出る「染井の水」は京の三名水の一つ。

<http://www.rakutabi.com/memory/memory17/memory17-p28.JPG>

新疆ウイグル自治区・小河墓遺跡における 古代ウシ遺物の分析

万年英之(神戸大学大学院農学研究科)

新疆ウイグル自治区・小河墓遺跡における古代ウシ遺物の分析

万年英之（神戸大学大学院農学研究科）

2007年より主に古代ウシ遺物を分析する「ウシ班」が立ち上がり、お仲間に加えて頂くようになりました。「ウシ班」とはいつでも、日本側研究者は現在のところ私一人で、中国側研究者が吉林大学の周先生と湯先生のお二人です。おそらく佐藤プロで動物分析は初めてのことで、色々と勝手が違うかもしれません。本年度より研究の一步を踏み出したところで、どのような研究結果が得られるのか未知数ですが、頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

皆様もご存知の通り、新疆ウイグル自治区・小河墓遺跡においては非常に保存状態の良いミイラとともに、コムギ種子やウシ・ヒツギの遺物が出土しています。ウシの遺物としては主に頭骨と皮です。ウシの皮は棺を埋葬する時に使われ、木の棺に故人を埋葬した後、ウシの生皮で覆うように棺を封印してあります（写真1）



写真1：小河墓遺跡で出土した木棺。黒っぽく見えるのが棺に覆われた牛の皮（新疆文物2003年第2期の裏表紙写真より転写）



写真2：小河墓遺跡で出土した牛頭骨。装飾と塗装が見て取れる（新疆文物2007年第1期の裏表紙写真より転写）

また、新疆文物考古学研究所の分析によれば、この棺に血糊がついていたことから、これは生皮を剥いだ後にそのまま棺を封印したことが考えられています。一方、発掘されるウシの頭骨は頭骨のすべてではなく、頭骨上部で切断され、場合によっては簡単な装飾や模様が描かれているものもあります（写真2）。

頭骨が発見されるのは、棺の中か墓標の木棒に結わえてあったらしく、墓標に結わえたものは長い年月の間に落ち、遺跡の砂の中に埋もれている場合も多いようです。したがって、その保存の程度は様々です。

これらウシの遺物の出土は、当時の家畜をめぐる環境や文化の推測に役立ちますが、疑問点も呼び起こします。ウシは草食の反芻動物であり、ヒツジやヤギと比べればより湿潤な多くの草が生えた環境が必要です。よって、この地域はその時代には草が豊富な温暖な気候であったか、そのような地域からウシを連れてきたかです。また、牛の生皮の使用と木棺の血糊からは、その場で牛を屠殺したことが推測されます。しかし、この遺跡からは牛皮と頭骨以外の骨はほとんど見つかっていません。それらの骨はどこへ行ったのでしょうか？また現代でもそうですが、ウシは非常に重要かつ貴重です（恐らく食用ではなく役用です）。たとえ1頭であっても故人の埋葬のために、貴重なウシの屠殺を行うかという疑問です。小河墓遺跡に埋葬されている故人は、特に王や貴族などではなかったと考えられていますので、もしそうならかなり豊富な畜産資源をこの時代に有していたことになります。

私の専門は現存家畜の遺伝学なので、これら牛の遺物からミトコンドリア DNA 解析を行うことを予定しています。東アジア各地域における現存家畜牛の分析データは有していますので、これら小河墓遺跡から出土される牛遺物に対して分析を行い、現存データとの比較を行いたいと考えています。ここから得られる遺伝的なデータからは、その時代における牛の種類や系統、遺伝的多様性などが明らかにされると期待しています。また、アジアにおける牛の起源についても一光を投げかけるかもしれません。さらに、その遺伝的多様性や発掘される数や形態などから、その当時に飼育されていたウシの数を始めとする畜産環境の状態を考察できればと考えています。今後これらの研究結果が蓄積されることにより、色々なことが見えてくると思います。また、節目でニュースレターや研究会を通じて、その成果をお伝えしていきたいと考えています。